

第4回流山市環境基本計画策定部会 議事録

平成26年3月19日 13時30分開会 16時30分閉会

出席委員：

吉永明弘部会長、和田登志子副部会長、新保國弘審議会会長、
秋元五郎委員、中大路早智江委員

事務局（環境政策課）：

染谷課長、齊藤課長補佐、遠藤副主査、小山内事務員
リジонаル・プランニング・チーム（コンサルタント）1名（内藤）

【骨子案について】

発言者 (敬称略)	要旨
和田	資料の年表は、1970年代、1980年代を左にずらし、10年ごとに見えるようにしてはどうか。
吉永	東日本大震災はわかるが、ダーバン合意についてわかりにくいので、説明をするかどうか。「ダーバン合意」とだけ書いて調べてもらうか。
和田	年号の隣に一語で調べられるような言葉を入れ、その下に概要の説明ではどうか。更に知りたい場合はキーワードを検索して調べてもらうことができる。
吉永	その方が検索しやすい。
和田	東日本大震災については、津波、原子力発電の停止、福島の影響の経緯、それらが環境にどう関係しているかということも入れてはどうか。
中大路	世界の動きというものは、どういう位置づけと考えているか。
事務局	国単独で対処できない環境問題、国境を越えた話が出てきており、地方自治体としてできる範囲で、世界規模のことに貢献、寄与する部分がある。地球温暖化対策、生物多様性戦略、PM2.5の問題などである。
中大路	世界の動きは非常に重要なので大事にしていきたい。
和田	世界で合意されたことは書いたほうがよい。それに沿って日本や地方自治体が対策し、市民が協力するという流れがある。市民に大きな流れをわかってもらう。
吉永	一番わかりやすい例は生物多様性流山戦略である。リオサミットで決まったことは一括するか、気候変動でひと枠、生物多様性でひと枠というようにしてはどうか。そこから、今の地域の取り組みにつながりがある。
和田	色が使えるのであれば、世界で決まったこととそれに沿って日本に決まったことにつながりを、同じ色で示すとわかりやすい。
吉永	生物多様性ながれやま戦略など、市の取り組みも年表に入れるとよい。
事務局	文字が小さくなるので、たくさんの文字は入れづらい。
和田	折り込みにしてもよい。
中大路	現状は文字が小さすぎる。高齢者は見づらいので配慮が必要。
新保	24ページ右下「都市環境と自然環境の調和」は、実は意味不明の言葉である。自然環境

	と都市環境（人工的環境）それぞれに良さがあり、「良さを生かしあう時代」といえる。都市環境だけが悪いわけではないし、自然環境も良いことばかりではない。子どもたちに教えるときに、子どもたちに教える立場の人間がそのことをわかっていない面がある。
事務局	自然に寄ってしまっているということか。
新保	自然を大事にとしかいわないが、都市も大事で地球温暖化問題に貢献している部分もある。良いところをいかすべき。
事務局	流山市では、開発で自然がなくなることは問題であるが、開発も必要であり、そのあたりをどううまくやるかが課題と考える。
和田	右下の円内には何を入れるのか。
事務局	イラストを想定している。
吉永	説明はたくさんいらないと思うので、図を大きめにしてはどうか。流山市の環境施策が、日本の環境行政や世界の環境動向とつながっていることを示せればよい。そうすれば、付録的にならず、意味が強くなる。
和田	「世界の動きと日本の環境行政の歴史に基づく流山市の環境施策」とすると、流山市の環境施策が世界の問題からつながっていることがわかる。あるいは、もっと柔らかい言葉がよいか。
コンサル	「世界と日本と流山の環境」ではどうか。
吉永	「世界につながる流山の環境行政」ではどうか。（一同合意の雰囲気）
事務局	流山市の環境行政を入れるとすると、環境基本条例、環境基本計画、生物多様性ながれやま戦略、地球温暖化対策実行計画といったところか。
新保	市民活動が先駆的であったので、そのことも盛り込むとよい。
事務局	市民活動は、常磐道整備等の時代からあり、どこまで拾えるかというのがむずかしいが、検討していく。
新保	本州製紙工場（江戸川区 当時）からの排水による江戸川汚染問題（1958）は水質汚濁対策の発端となった。江戸川河岸での大争議（江戸川下流の漁業被害）があった。当時、公害対策の条例はあっても役に立っていなかった。
和田	19 ページの見出しが（1）のみで（2）がない。また、これと同じ枠が 15 ページにも使われているが、何か意味があるか。
事務局	特に意図はない。
和田	15 ページの下が空くのならば、何か入れてほしい。
コンサル	色々書くと 1 ページに収まらないので、大事な部分をご教示いただきたい。
事務局	基本目標 1 の表現についてもご意見を頂きたい。
吉永	11 ページのルールの上にコロンが抜けている。10 ページの太陽光について、流山市の地域特性との関係を説明しにくい。水力や風力と違い、太陽光では地形的特性などを踏まえてというのはよくわからない。太陽光の他はむずかしいということを書いてよいのではないか。

事務局	市は太陽光発電に特化して支援を行い、屋根貸しを推進しているという状況がある。
コンサル	関東平野は冬の晴天率が高い。雨があまり降らない。発電の効率が高い、街づくりをするなかで導入しやすいということは言える。
吉永	それは前向きな理由のひとつになる。また、都市はエネルギーを使うので、地産地消が望ましい。
事務局	市内産業の育成という点もある。地元事業者も取り組みやすく、経済効果も生じている。
中大路	市内に何社あるか。
事務局	40社ほどで、ハウスメーカーによる申請も多い。
新保	太陽エネルギーはほぼ無限で、それを使ってきたのが植物である。植物のエネルギー効率は1%に満たないが、ソーラーパネルの変換効率をもっと良くて、そこをいかに高めていくかが重要である。自然環境を壊さないため、屋根を使うというのが大事。野田市では山林や農地にパネルを置いてしまっていて、それを規制できていない。屋根を使用して環境を壊さないということは、流山市の施策の特徴にもなる。流山市の補助金は他市に比べても高くなっており、まちおこしにもなっている。
コンサル	将来、（国政として）補助金や電力買取単価が後退するようなことがないか、少し心配がある。
新保	風力は鳥に影響がある。地熱発電、地中熱利用も地下の水脈等に影響がある。
事務局	地中熱はどこにでもあるから流山でもできるかと思ったが、地下も自然と考えれば、むやみにやるものではないかもしれない。
新保	吉永部会長のいうように、しっかりと太陽光の位置づけをした方がよい。
中大路	再生可能エネルギーの「活用」という言い方でよいのか。
新保	太陽がないと我々は生きていけない。太陽の大事さからつながる理念的なものを書けると良い。
和田	「太陽光の活用に特化」「太陽光の利用を中心に」のようなタイトルはどうか。
新保	森が太陽で育ったことと、「都心から一番近い森のまち」のイメージがつながると、ストーリー性が出る。
和田	埼玉の業者の訪問販売が流山市に入ってきている。メーカーの業者指定もあるので、市内事業者とパネルメーカーとをつなぐ必要がある。また、設置するならここにご相談をといった表記がほしい。
事務局	商工会議所に市内事業者による太陽エネルギー活用センターを設置していただき太田氏を参考に低廉で安心安全な太陽光発電設備の販売を行い、啓発のため広報にも記事を掲載している。
中大路	品質のよさ、価格等を市としてもしっかりアピールする必要がある。事業者を行政がバックアップする必要がある。
和田	メーカーも市民が選べるとよい。広報は毎号、相談先の電話番号等があるとよい。
事務局	他の記事との兼ね合いで毎号は難しいが、必要性はあると考える。
吉永	順番として最初の段落に、震災や原発の話からエネルギーの地産地消をやる必要があるということ、さらに自然を壊さない点で屋根を使った太陽光発電に特化するというのが

	あるほうがよい。その次の段落に、晴天率が高い、導入しやすい、森も太陽のエネルギーによっているといった、太陽光利用の利点や太陽の力の話があるとよい。また、今までの話を聞いていて思ったのは、地産地消を上位の理念としたほうがよいか、あるいは、地球を成り立たせる太陽の力があり、それを享受してきてできた森のまちであるから、我々も太陽の力で生きていくといったような書き方がよいか、ということである。
和田	太陽の力が第一、地産地消が第二の理念かもしれない。
新保	10 ページの表記は、メガワットより KW で統一したほうがよいかもしれない。二酸化炭素は体積で表すとイメージしやすい。計算は簡単で、最近の子どもはすぐできる。
コンサル	他の事例で、体積は温度によって変わるという指摘を受けたことがある。
新保	流山市を覆うようなイメージで、市の広さと比べての大きさが書けるとよい。
中大路	給付実績の掲載は必要か。
吉永	他に書くことも多いのでここには必要ないかもしれない。
和田	太陽エネルギー活用センターの電話番号を載せたらどうか。
事務局	基本計画としての性格上、あまり細かいことまでは載せづらい。
秋元	地球温暖化対策において、節電や電気自動車もあると思うが、9 ページの記載だけか。
事務局	①の地球温暖化対策実行計画の推進で、施策のひとつに含まれる。
和田	市役所の来庁者用の電気自動車充電スタンドを設置すると、利用促進や啓発になってよい。
事務局	検討した経緯はある。公共施設には、それほど長く駐車しないことや、自宅充電が主であることがあり、また市民サービスに直接結び付きづらいこともある。県ビジョンにある電欠防止の面からも、ディーラーやショッピングセンターへの設置と違うこと、近い将来の水素自動車の出現、課金の方法も課題となる。
コンサル	費用対効果や維持管理も考えなくてはならない。
新保	望ましい環境像について、「水」と「緑」はどちらが前の方がよいか。緑は市の施策でコントロールできるが、水は市だけでは難しいという面がある。
一同	「緑」が先にあるのがよい。
吉永	「子どもに残そう森のまち」とひとくくりになっているのは違和感がある。
一同	「緑・水・風土の豊かさを子どもに残そう 森のまち・流山」がよい。
新保	基本目標 1 について、「里山」は使わないほうがよい。またかという感じで思われやすい。オオタカについては、生息が厳しくなっているため「オオタカ等」としたらどうか。また、「緑」だけでなく「水」も入れたい。
中大路	「等」を入れるとぼやけてしまう。
コンサル	国は生物多様性において「里山イニシアチブ」といつてきた経緯がある。また、里山といっても、中山間から都市周辺まで色々なものがある。
新保	「里山」というと定義の議論にもなるので、なくてもよいのではないかと。(一同合意)
和田	基本目標に付いているイラストはあまりイメージがわからない感じがする。特に、2 枚の葉のものは、恵良さんの写真なども考えられる。

秋元	「オオタカ」のところは「多くのいきもの」として、オオタカを説明文に入れるのはどうか。
中大路	「オオタカ」という言葉は残したい。
和田	「多くのいきもの」「多種多様」等と比べ、市民としては「オオタカ」の方がよいかもしれない。
一同	「オオタカ」の表記については保留にし、とりあえずこのままにする。
新保	「緑」だけでなく「水」も入れて、「緑と水に育まれたまち」ではどうか。
コンサル	「育まれた」「育まれる」どちらが良いか。
一同	「緑と水に育まれる」が良い。
中大路	6ページの写真は利根運河であることがわかるよう、書いたほうがよい。
吉永	望ましい環境像の説明分について、「自然の基礎ともなる里山が形づくられました」は「自然の基礎が形づくられました」でよい。
新保	江戸川の大改修とともに、河岸の設営についても触れるべきである。
中大路	「自然の基礎」といういいかたは違和感がある。
コンサル	「環境」といってはどうか。
中大路	ここでも緑・水・風土の順に直す。
新保	昔は市内で林業が行われた時代があったので、馬の放牧の後ろに林業を加えたほうがよい。河川では坂川と大堀川の経緯にも触れてほしい。また、流山で一番歴史が古いところが八木といったこともコラム等で触れてほしい。環境を俯瞰してみていくと力強く、立体的になる。
事務局	基本目標4の放射性物質対策について、今まで除染を行ってきた、住宅や子どもが多く利用する施設の除染は終了しているが、今後もモニタリングを継続する予定であるため、このように書いている。また、環境基本法が改正され、以前は同法から外れていた放射能汚染の問題が、個別環境法で扱う方向に変わってきたため、そのことについても書いている。
和田	全国に先駆けて除染を行ったという事実を書いてもよいのではないか。
事務局	デリケートな問題であり、市民の中でも、終わったという主張もあればまだまだ終わっていないという主張もある。
中大路	市への信頼のために、流山市がこの問題にどう取り組むという方針を打ち出し、しっかりと計画に入れたほうがよい。焼却灰や枝葉の問題も残っているし、未だに野菜の産地などに抵抗感を持つ人もいる。ここはおろそかにしない方がよい。
コンサル	原発事故の後、安全管理の部分が環境省の所轄に移され、環境基本法では適用外だったものを適用範囲とした流れがある。個別法での対応については、順次進むと思われる。法制度の変更に対応することと、市民の不安や要望に応えるという2つを示すとよい。除染の経緯は、3ページで記載している。
和田	除染の事実については、あえてここでも触れてもよいと思う。
事務局	モニタリングを継続的に行い、対応を続けるというのが現在の市のスタンスである。環境基本法の部分は、誤解を招かないよう表記を検討する。

和田	現在、市民自らが測定機を借りて測定・監視ができるということも安心感につながるので、書いてはどうか。
中大路	3 ページ「一次保管を行いました」は、過去形ではなく現在進行である。
中大路	15 ページの行動指針はどのような内容が入るのか。難しさ、重さを感じる。
事務局	他市では、市民にやって頂きたい、あるいは市民が行うべき行動を書くことが多い。ある程度まとめて総じて書くか、どこまで個別具体的に書くかという書き方も検討課題である。当たり前のことを並べるのでは効果に疑問もあるが、計画としては記載が求められる部分である。
中大路	行政から「市民の行動指針」と示されるのは、押しつけの感、違和感もある。
コンサル	「行動指針」という言葉は、リオサミットのアジェンダ 21 の際に広まった。効果的な書き方が難しい。どこでも当てはまるようなことを箇条書きに、網羅的に書くことも多いが、それだと心に響かないので、具体的に書く方法もある。
和田	太陽光発電の設置や屋根貸しといったことか。実行可能なことがよいと思う。
吉永	「まちをきれいにしたい」に加わってください等、具体的に書いてはどうか。総論的に書くと当たり前のことが列挙される。基本計画だからこそ当たり前のことを書くか、実効性を優先して具体的に書くのがよいのか。
コンサル	これだけやればいいんだということを書いてほしいという意見が出る場合もある。
新保	「市民と事業者に期待すること」として、その優先順位をつけて示すべきで、優先順位がつけられないなら掲載しないほうがよい。
中大路	アンケートの結果や自由意見を、市民の行動に活かすべきではないか。簡単な形がよい。
コンサル	自由記載なので集計的にではなく、出された言葉を参考にすることは考えられる。
吉永	市民や事業者がやらないがために基本目標が達成されないということがあれば、そのことについて協力してくださいと絞り込んでお願いするというのはどうか。
和田	例えば、レジ袋やトレーのごみが多くて困るので、マイバッグや量り売りに協力してくださいということか。
事務局	原因は多種多様なので、施策として求めるものはあり、印象として特出しはできるが、効果につながる特だしはむずかしい。
吉永	例えば基本目標 3 であれば、「犬のふんが増えて困っています」のように緊急トピックとして特出しするのはどうか。ポイントを絞ってお願いをするほうが実効性はあると思う。
中大路	絶対と決めつける言葉には反感が生じるので、言葉の選び方に気をつけたい。そのところは本当にむずかしい。市民が積極的に参加しよう、やっといこうと思えるようでないといけない。アンケートが活けるとよい。
吉永	いっぱい書かれると何が大事か、何をしたいかわからなくなる。
新保	行動指針というよりは、アンケートを参考にした行動事例ではないか。そこに優先順位をつける。目に見える効果が必要。ここはとても大事な部分である。
吉永	「市民・事業者ができること」としてはどうか。
吉永	行動指針は基本目標 5 から続くものか。

事務局	基本目標 5 は、基本目標 1～4 全体に係る内容で、行動指針とは区切っている。
吉永	5 ページの体系図は枠が多い感じなので、①等の小さい項目には枠は不要と思う。また、4 頁の環境マップ（仮）はどのようなものになるのか。
事務局	市内の特徴的な自然環境等を落とし込んだマップを想定している。あるいは生物多様性のマップを使用することを想定している。
コンサル	全ての情報を載せることはできないので、計画の方向性が決まってから、情報量をコントロールして作成する予定である。
和田	（生物多様性戦略の重要地区となっていない）南部地区や東部地区についても配慮してほしい。
中大路	どの辺りが東部、南部なのかといったこともわかるとよい。
新保	都市公園と市民の森に、水系と源流、元（昔）の流れの情報もほしい。大堀川や坂川の源流を点線で書くなどすると興味深い。
和田	防災井戸の情報もあるとよい。
事務局	市に情報はあると思うが、数が多いため書くとわからなくなるかもしれない。
新保	今上落、宮園と市野谷の調整池は重要で、湧水も扱おうと良い。
事務局	様々な要素を入れるなら、ここ（4 頁）にあるより、資料のところで大きくしたほうがよいかもしれない。
吉永	地図の名前は「流山市の自然」でよいか。
事務局	仮の文言なので、作図内容と照らしながら検討する。緑と水のマップというような言い方も考えている。
新保	色々入れるならカラーのほうがわかりやすい。拠点の地図は白黒でよい。
事務局	本日頂いたご意見をもとに早急に検討し、案をメールでお送りし、了承をいただければ環境審議会の資料とする予定である。

◇意見要旨（文字修正、用語追加等、直接反映できる項目は含まず）

ページ	内容	意見要旨
6	環境像	緑を先にして「緑・水・風土の豊かさを子どもに残そう 森のまち・流山」とする。
7	基本目標 1	「自然と共生しオオタカがすむ、緑と水に育まれるまち」(仮)とする
10	太陽光	土地・自然をいじらず、屋根を使うというのが大事。流山市の施策の特徴にもなる。
		市内事業者育成の観点も位置付ける。市内業者との連携、品質や営業姿勢のへ信頼に、市も取り組む必要がある。
		再生可能エネルギーというより、太陽光に特化させる。 最初に、震災や原発の話からエネルギーの地産地消をやる必要があると

		<p>ということ、さらには屋根を使った太陽光発電に特化すると書く。次の段落で、太陽光利用の利点や太陽の力、無限性の話を書く。</p> <p>そもそもの理想的には、地球の環境は誕生以来太陽のエネルギーを受けて形成され、植物は太陽光を使って育った。その恩恵を享受してきてできた森のまちであるから、我々も太陽の力で生きていくといったようなことである。</p>
13	放射能	<p>全国に先駆けて除染を行ったということは書いてよい。</p> <p>市への信頼のために、流山市の方針をしっかりと書いたほうがよい。</p> <p>市が行う対策としてのモニタリングと、環境基本法改正関連の制度的対応の2点について、示す必要がある。</p>
15	行動指針	<p>「市民・事業者ができること」とする。</p> <p>アンケートの結果や自由意見から、簡単な形で、みんなができることを引き出すのがよい。</p> <p>ポイントを絞り、優先順位をつけるべき。</p>
23	世界の環境動向等	<p>図を大きめにすることを優先し、説明は少なくともよい。</p> <p>「世界につながる流山の環境行政」として、流山市と、日本の環境行政や世界の環境動向とのつながり(生物多様性、地球温暖化)を示す。</p>